

# SETOGIWA TIMES

発行者：行政書士塩見事務所 E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)  
大阪市中央区谷町 2-5-4 702号 Tel: 06-6946-9505

## ① 男女共同参画社会と言うけれど

「男女同権」という言葉には古さを感じるようになり、「男女共同参画社会」という言葉には新しさを感じなくなりました。時代につれて言葉は変わっても、理想と現実のギャップはなかなか埋まりません。

責任のある仕事を任されない、最終決定権を与えられない、仕事は上司・同僚の補佐ばかり……。よく聞かされる職場における女性の不満です。

仕事に自信のある女性ほど、自分の思いと現実とのギャップにいらだちを覚えています。実力のある人がその実力に応じた仕事をさせてもらえない、ありがちなことです。(同様のいらだちは、女性だけでなく男性にもあるのでは?)

一方で、女性の側に反省すべき点はないでしょうか?

「いくらがんばって仕事をしてはどうせ認められることなどない」と諦めてしまっていることはありませんか?あるいは、「現在の環境に甘んじているほうが楽だ」と思うことは?自分で自分の限界を決めてしまうと、その限界を超える仕事はいつまでたってもまわってきません。

## ① 仕事を終えて



「新しいキャリアを身につけるために何度か資格試験を受けたけどうまくいかなかった……。帰宅途中で晩ご飯の食材を買い、家に着くと食事の支度。家族が食事を終えて後片付けしたあと、やっと自分の時間が持てた時には一日の疲れが押し寄せる……。意欲が足りないと言われるかもしれないけれど、

フルタイムで働く妻にとって自由に使える時間は少ない。たとえ少しでも家事に協力してくれればいいけど、旦那は旧家の長男で、そんな家庭教育は受けていないし、新しい考えの人でもない。」ある夫婦共働き家庭の女性のお話です。

もしも生活の中に、夫婦それぞれが自分の思いを語り合う習慣が当たり前にあったなら、夫が妻の目指すことを理解して協力を申し出ることもあるはず。夫は夫で、職場の問題を妻にぼやく、それに妻が相槌を打っているうちに・・・「解決策がわかった!」、なんてこともできます。

## ① 誰のための人生か

女性に押し付けられることの多い家事ですが、積極的に家事能力を身につけることは男性にとっても悪くありません。

家事には一話完結の達成感あり、思いがけない効果＝体を動かしながら思索ができる（家事をこなしながら、頭では別のことを考えている）というところがあります。なんて哲学的なのでしょう！

夫が仕事を引退して一日中家庭で過ごすことになったあとも、あいかわらず妻が家事全般を担当するとすれば、夫は買い物に行ったこともない、野菜や米の値段も知らない、妻が出してくれたものを食べるだけという毎日です。

「1年365日・三度三度の食事の支度が一番の苦痛」という妻の証言があります。適当なメニューで済ませるようになってもおかしくありません。



ある時ふと家事サービス低下に気づいた夫は、「今日は私がやるよ」と声をかける。「ずいぶん遠ざかっているが、昔はこれでもやったものだ」と腕自慢。「危なっかしい」と不安顔の妻をよそに、「ドンと来い!」と得意顔です。

久々に夫は家事に携わることの楽しさを思い出し、妻は喜ぶ、これで家庭円満間違いなし・・・？

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)